Since 1972.2.24

世界に希望を生み出そう

帯広西ロータリークラブ 会報

第2465回例会

2024.2.14

ROTARY CLUB OBIHIRO WEST JAPAN HOKKAIDO

Rotary

■RI第2500地区スローガン■
今こそ変わる勇気を！
さあ、一歩前へ

■クラブ・テーマ■
皆に希望と笑顔と愛を！
ロータリーを楽しみながら活動しよう！

ゲスト紹介

UniteWorks
久保田　一完 様
JICA北海道(帯広)
チャム　祐子 様
社会福祉法人元気の里とかち
チャン・ゴックトゥイタイン・チュック 様
株式会社大地　ジェムスラン・オドン 様
有限会社田口畜産　タン・レイセイ 様
司会：NHK帯広放送局　赤松　俊理 様

会長報告

帯広RC　工藤　大輔 会長

本日は7ロータリークラブ合同例会、多数のご参加をいただきまして誠にありがとうございます。先ほど全員からも紹介ありましたがロータリーの特別月間、2月は平和構築と紛争予防月間です。ウクライナやパレスチナ自治区での惨状は日々ニュース映像でご覧いただいてるかと思いますけども、世界に存在するブロック紛争の数は100あると言われております。特にアフガニスタンにおいては、長期にわたり累計200万人以上の死者数になっております。紛争が起こる原因には大きく四つ。一つは宗教、宗教の違いや、同じ宗教でも内部で考え方の違いで紛争が起こることがあります。二つ目に民族、民族とは共通の言語や宗教、風習、などを持った集団でこの民族について違いによっても、紛争が発生しております。三つ目は資源、石油などの資源を巡り紛争が勃発することもあります。そして四つ目は政権への不満、軍の内戦は軍事設計に対する民衆の不満から始まっております。結果、食糧難に陥り、病気や感染症などが流行し、教育の機会を奪われ、敵対勢力への暴力や性的虐待が起こります。ロータリーでは、ロータリー平和センターを運営し、平和のために活動する人材を育成。グローバル補助金を活用してロータリアンが直接手を差し伸べたり、紛争地域を支援する関係団体とパートナーシップを結び、平和に向けてのプログラムやイベントを実施しております。私達が世界で起きている紛争とその背景を知り、今どこの国のどのような人が紛争に苦しんでいるのかを認識することです。私達自身の支援する意欲に繋がると思います。本日のプログラムは平和構築への第一歩として、十勝で働き、生活している、在留、外国人の方、そして受け入れ支援をしてくださっている現場の方にお話をお聞きし、国際理解と私達にできる国際奉仕のあり方を考えるきっかけやヒントになればと思います。以上、会長報告とさせていただきます。本日よろしくお願いいたします。

会務報告

帯広RC　猿川　陽介 幹事

①帯広西RC、2月15日（木）の例会は、2月14日の繰り上げ例会と致します。
帯広南RC、2月19日（月）の例会は、2月14日の繰り上げ例会と致します。

②帯広北RC、創立記念夜間移動例会開催のご案内
日　時　2月16日(金)午後6時30分
場　所　ふじもり

③帯広西RC、2月22日（木）の例会は、休会と致します。
帯広北RC、2月23日（木）の例会は、休会と致します。
帯広南RC、2月26日（木）の例会は、休会と致します。

④帯広西RC、創立記念夜間例会開催のご案内
日　時　2月29日
場　所　北海道ホテル

⑤RI2500地区第6分区都市連合会【IM】開催のご案内
日　時　3月30日(土)午後1時
場　所　ホテル日航ノースランド帯広

＊尚、帯広南RC、3月25日（月）の繰下げ例会と致します。
帯広東RC、3月26日(火)の繰下げ例会と致します。
帯広RC、3月27日(水)の繰上げ例会と致します。
帯広西RC、3月28日(木)の繰下げ例会と致します。
帯広北RC、3月29日(金)の繰下げ例会と致します。

Rotary
会　長　天野　清一　副会長　上野　裕司　会場監督理事　伊藤　公康　発行：広報委員会
幹　事　立崎　貴之　副会長　柳沢　一元　プログラム委員会理事　近藤　真治　委員長　板倉　利幸　(副)朴　昌人

例会日／木曜日　12時30分～13時30分　例会場／北海道ホテル　帯広市西7条南19丁目1（TEL 21-0001）
創立／1972年2月24日　事務局／帯広経済センタービル東館3階　TEL 25-7347（直通）　FAX 28-6033

◘プログラム

帯広RC　高橋 国際奉仕委員長

十勝で求められる国際奉仕とは。このテーマのきっかけは十勝在住の外国人が石狩に次ぐ多さということで、このテーマにさせていただきました。本日は３名の在留外国人の皆様、そして日々、その在留外国人のご支援、そして交流をされている関係団体の２名の方に、来ていただいております。この５名の皆さんの声を直接聞いていただいて、皆様が感じることを、十勝で求められる国際奉仕から、十勝でできる国際奉仕。そんなことを考える一助にしていただければと思います。

講演

～ディスカッションテーマ～

「十勝で求められる国際奉仕とは」

NHK帯広局の赤松と申します。今日は、コーディネーターを務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。まず、ユナイトワークス代表の久保田一完さんです。久保田さんは畜産関係の会社で人事のお仕事をされながら、在留外国人を支援する団体をご自身で立ち上げて活動されています。続いて、JICA北海道帯広国際協力推進委員のチャム優子さんです。チャムさんは、十勝管内19市町村の外国人材受け入れ支援、多文化共生の担当として、昨年3月から着任されています。3人目は、チャンゴックツインタインチュックさんです。チュックさんはベトナムから音更町にいらっしゃって、今は社会福祉法人元気の里とかち様で介護のお仕事をされています。次は、ジャムスランオドンさんです。オドンさんはモンゴルから幕別町にいらっしゃっていて、株式会社大地様で、建設業のお仕事をされています。そして最後はタン・レイセイさんです。タンさんは中国から幕別町にお越しで、有限会社田口畜産様で酪農の仕事をされています。今日は私含めてこの6名でお話進めてまいりたいと思います。

〝タンさん〟

・幕別町にいらっしゃって4年目ということなんですけども、70棟の子牛の世話を普段されているということなんですが、どんな作業をしているんですか。

⇨ミルク分けたり、調子が悪い子牛いないか見たりしています。

・調子が悪い子牛がいないか、どうやって見分けるんですか。

⇨耳が冷たい、目が落ちている、水切りしてるいろいろありますね。

・お仕事をしていて一番大変なことって何ですか。

⇨子牛は喋らないので調子が悪いのか見つけるのが大変です。

・タンさんは中国から4年目ということですけど、どうして日本に来ようと思ったんですか。

⇨日本は綺麗で安全だと思いました。来てから、皆さん優しいし、食べ物も美味しいですね。

・やっぱ日本の暮らしは楽しいですか。

⇨楽しかったです。

・中国にご家族、ご主人とお子さんがいらっしゃると残していらっしゃるということですけど、寂しくないですか。

⇨寂しくないです。

・どうしてですか。

⇨毎日テレビ電話で話しています。

〝オドンさん〟

・鉄骨の溶接のお仕事をされているということなんですけど、難しくないですか。

⇨全然大丈夫です。

・楽しいですか？

⇨お仕事楽しいですし面白いです。

・どんなところに住んでるんですか。

⇨会社の中に住んでいます。その方が安心です。

・社長さんと一緒に住んでるので安心して暮らせているということなんですね。そして今このモンゴルの国旗やギターも弾いてらっしゃるとの事ですが、休みの日はギターで歌ったりしてるんですか。

⇨作業服の洗濯して、買い物をして、遊びに行ったりします。音楽が好きなのでギターを練習しています。好きな曲はX-JAPANの紅です。

・そしてお正月は札幌の方にも行かれたそうですね。

⇨今年のお正月は友達に会いに札幌へ行きました。

〝チュックさん〟

・チュックさんは5年目ということで、介護施設で働いてらっしゃるということですが、どうしてこの仕事を選んだんですか。

⇨お父さん病気で介護が必要でした。しかし介護のやり方はどうかどうかわかりませんでした。ベトナムには介護の仕事がないんです。日本に来たら、技術や介護を勉強できると思いました。

・実際に日本で、介護福祉士の国家試験に見事合格されたということで、大変だったと思うんですけど、何が難しかったですか。

⇨やっぱり、一番難しいのは日本語です。専門用語で一番難しいです。

〝十勝の暮らしについて〟

・皆さんそれぞれ3年以上日本で、そして十勝で暮らしてらっしゃるということですが、チュックさんこの十勝に暮らしてみて、どんなお気持ちどんな感想を持ってますか。

⇨十勝は食べ物が美味しいです。自然も綺麗ですし、静かです。仕事も楽しくて。でも最近はちょっと円安なので大変です。円安のため仕送りのお金が減ってしまいます。

・オドンさん十勝の感想とか、今の生活はどうですか。
⇨楽しいときもきついときもありますが頑張ってます。
・タンさんはどうですか十勝の風景とか暮らしは。
⇨仕事は楽しいです。中国の故郷に似ています。
・山東省というところが出身で十勝と風景も似てるんですね。
⇨そうなんです。

〝久保田さん〟

・久保田さんはユナイトワークスで会社員でありながら、外国人の皆さん支援する団体を立ち上げられたということなんですがその経緯をまず教えていただけますか。
⇨私は帯広市の出身でして、大学進学の関係で一度札幌には出ていますが、地元に戻って現在は畜産関係の会社で、外国人の人事業務を担当しております。その仕事の中で、まだまだ外国人労働者への理解が足りていない部分や不足してる部分、あるいは地方特有の課題というものを感じております。自分の属してる会社の労働者の方だけ良くするのではなくて地域全体で取り組まなければならないと感じ、会社の枠を超えて活動するために自分で団体を立ち上げさせていただきました。
・具体的に活動はどういったことをされてるんですか。
⇨活動としては大きく二つありますが、1つ目は外国人労働者の方を受け入れる企業さんへのコンサルティングです。実際に外国人に長く定着して働いていただくためには、採用のときのミスマッチを防ぐこととかいろいろな施策が必要なりますので、例えばミスマッチを防ぐような採用選考の方法のご提案とか、あるいは従業員の満足度とか、エンゲージメントを高めるような施策ものをご提供させていただいて、横の繋がりを重視しながら適切な雇用ができるようなアドバイスをさせていただいております。もう一つは外国人の方のサポートで病院に連れて行ったり、あるいはその地域のルールの説明とか防犯のセミナーを取り組ませていただいております。

〝チャムさん〟

・ご自身の仕事をご紹介いただけますか。
⇨JICA帯広センターでお仕事してます。海外に元々携わるきっかけとなったのは同じこのJICAで行っている青年海外協力隊というボランティア事業に参加したことがきっかけで、2度ほど西アフリカにあるセネガルという国に派遣されてした。そこで出会った方と結婚したので、名字がチャムというふうになっています。
・今十勝に住んでいる外国人のことなんですが、まず全体状況を教えていただけますか。
⇨十勝に住む在留外国人は、2023年の6月末はおよそ3000人ということになっています。2023年の12月末のデータは大体3500人をちょっと下回るぐらいですので、増えてきています。そのうち、技能実習生が880名、特定技能が980名ということで、かなり多くの方が、外国人材という形で町で活躍してくださっています。
・一番多いのがベトナムが一番多くて1200人ぐらいですか。
⇨ベトナム人の方が多くてインドネシアの方も増えてきてるかなという印象です。
・ベトナムはチュックさんのような介護の仕事をされてる方が多いんでしょうか。
⇨この地方の特色としては農業に酪農もおおいですね、タンさんのような酪農に携わってる方やオドンさんのように建設業の方も多いと聞いています。
・皆さんが困ってることというのは何が一番ある思いますか。
⇨酪農のところでは交通手段の確保が難しいとお話をいただいてます。普段の身の回りの生活の足がない、自分の免許まで持ってる方がまだ少ないということですね。
・チャムさん、途上国が困っていること、国際社会に支援してほしいということはどんなことだというふうにお感じになってますか。
⇨一つ取り上げるとすればやはり定職に就くことが難しい状況は途上国共通していることだと思います。地方から都市に出てきて、地方の方に送金をするっていうケースも多いと思うのですけれども、国内での仕事がないと、セネガルの場合ですとヨーロッパの方に出稼ぎに行ったりします。日本はいろんな技術を持っている国なので、そういった技術を外国人材として来ている方々にも伝えていくことも途上国の発展に繋がるのかなと思っています。

〝久保田さん〟

・なるほど困り事で言いますと久保田さんもいろんなことをお感じになってらっしゃると思うんですが、どんなことが困ってらっしゃるという感じですか。
⇨はい。やはり私の方でもよく聞くのは、交通手段車の問題です。買い物ですとか非常に不便だと行きます。

〝チュックさん〟

・チュックさんにお伺いしますが買い物とか、最初大変でしたか。
⇨車がなくて、最初はちょっと大変でした。
・どうやって移動してたんですか。
⇨前は更別村に住んでいたので、バスしかないです。乗るのもちょっと大変です。待ち時間とか、お金もかかりました。

〝久保田さん〟

・久保田さん、慣れない国の中で暮らすなら移動手段ってやっぱり大変だということなんですね。
⇨やはり自動車免許を取ろうにも結構外国人の方にとっては、高額なものですから、難しい現状です。

〝タンさん〟

・タンさん、4年間十勝で暮らしていらっしゃってますけど、これからも十勝に住み続けていきたいという気持ちはありますか。
⇨はい。ずっと住んでいたいです。十勝が好きです。

〝オドンさん〟

・オドンさんはどうですか？十勝含め日本で暮らしていきたいという気持ちはありますか。

⇨はい。モンゴルにいる奥さんと子供と一緒に日本で暮らしたいと思っています。今年の夏にまず奥さんは旅行で来ます。家族もここに住みたいと言うのではと予想しています。

〝チュックさん〟

・チェックさんは日本で暮らしていきたい、働いていきたいというお気持ちはありますか。

⇨はいあります。日本で働きたいです。頑張って資格も取れたし、さらにこれからも働いて暮らしていきたいです。

〝久保田さん〟

・こういった方々が、暮らしていただけると人口減少が進んでいる北海道でも、定住者という形で人口も増えていくと思いますが今後どういうふうになっていくと思いますか。

⇨雇い入れしていただいて、外国人の方に実際に十勝に来ていただくことは加速していくと思いますが、大事なのは定着していただくことが地域活性化に繋がることかなと考えております。

・そのためのプランを今日はご提案いただけるという形で資料もご用意いただきましたので、ご説明いただけますか。

⇨人口減少と地域を活性化していくためには、外国人の方にまず最初に十勝帯広っていうのを移住先に選んでもらうことが重要かと存じます。そのためには働く場所と住む場所のこの二つを良くしていって、外国人にとって住みやすいと感じられるところにしていきたいと考えております。まず、外国人を受け入れしていただく企業さんを増やして、外国人の数を増やしていく。その上で、職場に定着するための施策を講じていく。2つめは、外国人の方が増えていって定着していったら今度は住みやすいまち作りを目指し、外国人の方から帯広十勝に住んでみたい、行ってみたい。ここで働きたいと思っていただけるようなところにしていきたいと思います。ただ、様々な課題がありまして、外国人労働者の方を雇用して、人手不足を解消するというのは企業さんにとってもメリットのある話ではあるんですけれども、デメリットの部分もございます。外国人労働者の方の管理の難しさであったり、あるいは日本人従業員と入れ替わりで入れてしまうと、品質的には若干下がってしまう部分もございます。職場に定着するための施策の中では組織構築というのが最も重要ですが教育研修、こういった部分にも力を入れていく必要がございますし、また直接的な離職対策として、従業員満足度の向上やエンゲージメントを上げていくような施策というのが求められていくと思います。また、実際に来ていただいて職場定着しても、今度は生活の面で課題があります。例えば近隣トラブル、ゴミのルールがわからないとか、騒音の問題とかというのもございます。先ほどタンさんが家族とテレビ電話でお話するっていうお話がありましたが、これも外国人の方特有でして、単身用のアパートですとかに住んでいてもやはり、インターネット上でテレビ電話でお話するものですから、相手方の声も入ってきますし、ボリュームがちょっと大きくなったりする、そういった部分が日本人の方ではなかなかない苦情です。また近隣トラブルだけではなく例えば病院に行くときには、問診票の書き方がわからなかったり、お医者さんが症状を具体的に聞けないことになれば病院側も困ってしまいますし、もちろんその受診する外国人側も困ってしまう、こういった事例が病院だけではなくて学校とか、自治体とか様々なところで起きてくるので、受け入れ企業には法的な責任ってのは一切ないんですけれども、実際に雇ってる会社さんに苦情がいったり、こういったデメリットを、受け入れ企業は自覚した上でいろいろ企業側で対策も講じなければならないと考えております。

外国人の方を雇用するのは、簡単なのですが実際に外国から従業員の方を雇うのは、自社ですることができないのでやっぱりエージェントさんだったり、その代行する仲介の業者さんにお願いするものですから、自社の工数としては非常に少ないんですね。お金を払ってやってもらう、紹介会社にやってもらうので、意外とすんなりと雇うところまでは行けたりするんですけれども、雇った後にこういった課題があるということをまずご理解いただきたいなと思っております。その上でダイバーシティの時代に既に突入してる状態ですので、昨今いろんな不祥事とかもありますけれども、特にこの人権に関わる部分、パワハラとかセクハラもそうなんですけれども、十分配慮して雇用していただきたいなと思っております。

・暮らす方が増えてきてその雇い入れるまでは比較的スムーズにいきますが一緒に暮らしていく、そして久保田さんがご自身その団体を立ち上げられた経緯としてもその暮らしの困りごととか、どういうふうに我々と一緒に暮らしていくか、身近なトラブルであったり、よろず相談とかそういったものをどういうふうにやって、日本人の文化や習慣と繋げていくのかというところが課題です。

⇨ゴミに関する問題というのは寄せられる苦情でも多です。やはり母国とゴミのルールが違うものですから、日本のゴミの分別ルールがわからない、あるいは教わっていないとか、教育が不十分ということで、ゴミを捨ててもそれが回収されずに、地域の住民の方から苦情という形で来てしまうということがあります。

〝タンさん〟

・タンさん、ゴミを日本では分別しますけど、難しいですか。

⇨難しいです。だいぶできるようになりましたが。

・中国ではどうでしたか。

⇨中国は、燃えるゴミ燃えないゴミが一緒です。やっぱりそういう意味では、慣れるまで最初大変でした。

・チュックさんベトナムではどうでしたか。

⇨ベトナムも同じです。一緒に捨てます。分別は缶とペットボトル。それ以外はそのまま全部一緒です。

・日本に来るときにゴミのルールとか生活ルールっ

て習ったんですか。
⇨はい。日本へ行く前に日本語の学校でゴミ分別を勉強しました。
・そのときどう思いましたか。
⇨ちょっと細かくて面倒くさいと思いました。
・やっぱり他の国からすると、普段一緒なものを何でこんなに細かく分けるんだっていうふうに思いますよね。今は慣れましたか。
⇨今はもう慣れました。

〝チャムさん〟
・チャムさんも聞いてみましょう。チャムさんのご主人セネガル人ということですけど、ゴミをどうされてんですか。
⇨セネガルもやはり他の国と同じで、ビン、缶、ペットボトルは再利用するのでその部分は分けるんですけど、それ以外は全部一緒なので、日頃から私が彼のゴミをチェックしてます。

〝久保田さん〟
・今こうやってお話聞いてますと、やっぱりルールとしては理解いただいて、多分時間をかければできることが増えていくと思うんですが、意識というか、文化というか、その辺りをすり合わせていくことの難しさのようなものはどうでしょうか？
⇨おっしゃる通りかと思うんですけどもやはり日本の文化と、それぞれの母国の文化が違うものですからその違いというのを理解した上で、なぜ分別をしているのかとかそういった部分まで踏み込んで、外国人の方に理解していただいて、分別できるようにしていく。これには時間をかけながら教育することが重要かなと思います。
・やっぱりお話を丁寧にしていくことで変わってくるものですか。
⇨そうですね、分別の方法自体は自治体とかによっても変わってしまうので、なかなか日本に入国する前に勉強しても実情と違う部分もあるんですけれども、ただその部分はまた言語化したりとか、、そこら辺はすぐできると思うんですけれども、実際に日々の生活の中で毎日分別をして毎日やっていくっていうのは意識そのものを改善していかないと、なかなか難しいものと感じます。
・今回はゴミを題材に具体的な事例としてお話しました。他にも病院でのお話ですとかいろんな生活のところでそういう文化の違い風習の違いってあると思いますが、そういったことがあるという前提のもとでお話をしてすり合わせていくことを、企業の側、あるいは地域で暮らしていく皆さんには必要になってくるんでしょうかね。
⇨本当に細かいところでもいろいろ問題として噴出してしまって、一つ一つは小さくてもそれがまとまってしまうと、やっぱり外国人の方に対する批判ですとか、雇い入れされてる企業への批判に繋がりかねないので、多くの方が相手国の文化ですとかどういった国なのかっていうのを理解した上で日本側に寄せていくのか、あるいは日本側が若干寄れるのか、そういった部分を含めてすり合わせということかなと思います。

〝チャムさん〟
・行政に近い立場で、外国の皆さんに、JICAという組織で接してますけども、今、久保田さんのお話があったようなことを踏まえて、どんなことを支援していただきたいというふうにチャムさんの立場としてはお感じになりますか。
⇨私自身も、着任してから1年くらいですが、なかなか当事者の声を拾うっていうところが難しいのが正直なところではあるんですよね。当事者というのは在留外国人の皆さんの声なので、まずは支援っていうところよりもその関わる交流をする機会っていうところを積極的にしていただくのがいいのかなと思います。
・まずは接点を作っていくということですか
⇨はい、私達JICA帯広でも毎年この2月と7月に隣の施設の森の交流館で国際交流のイベントを開催してまして、2月10日の日にも沢山のロータリークラブの皆さんにもお世話にはなったんですけれども、初企画で多文化共生カラオケ大会を開催し、オドンさんにも出演していただいたんです。
・オドンさん何歌ったんですか。
⇨桑田佳祐さんのスマイルです。
・サザンオールスターズを歌ったということですね。そういったカラオケという形で接点を増やしていくということなんですね。
⇨今回はJICAでそういった場の提供をさせていただいて、帯広ロータリークラブ、帯広西ロータリークラブ、帯広南ロータリークラブの方々から出演者のにプレゼントの物品のご協賛をいただいたということで、ご協力いただいた皆様どうもありがとうございました。
・先ほど支援ではなくて交流というお話ありましたけども、やっぱり実際に会ってみて、同じ場を共有していくっていうことで何か繋がっていくことで変わってくることがあるんでしょうかね。
⇨スーパーで外国人見る機会が増えたなとかっていう体感は皆さんお持ちだと思うんですけれども、その人たちがどこで何をしている方なんだろうって一歩踏み込んで知る機会っていうのが、イベントを通してとかでできていったらいいのかなと思っています。
・今日はお越しの皆様の立場もあると思うんですがそれぞれの得意分野とか、建築業とか、農業などいろんな形で得意分野を生かしていくっていうのも一つ考え方でありますかね。
⇨そうですね。ご要望があれば私の方も一緒に何かさせていただきたいなと思います。
・ぜひ歌が得意な方、カラオケもあるそうですので、チャムさんにご連絡いただければと思います。歌を通じてオドンさんがサザンが歌えるんだとか、そういった記憶に残っていったり外国人の皆さんへの見方や感覚が変わっていくのかなっていうのを今のお話聞いてて感じました。

〝それぞれの夢〟

〝タンさん〟
・タンさん、将来の夢は何でしょうか？
⇨中国に帰って日本で勉強したことを教えたいで

す。牧場を作りたいということです。500頭ぐらいから始めて、将来は何頭ぐらいまで2000頭を目指します。

・その夢実現に向かって頑張ってくださいありがとうございます。

〝オドンさん〟

・オドンさんは将来の夢なんでしょうか。

⇨私は家族を呼んで、息子に相撲を習わせたいです。横綱になってほしいです。

・素晴らしいですね、一緒に日本で暮らして北海道ですと、札幌ゆかりのモンゴル人力士いらっしゃいますから、後援会に入ってらっしゃる方が居ましたら、ぜひオドンさんとお繋ぎお願いいたします。

〝チュックさん〟

・そしてチュックさん将来どんな夢を持ってらっしゃいますか。

⇨ベトナムでは今グループホームとかと、特養老人ホームがほぼないので、ベトナムに行ったら、自分で施設とかを作りたいです。

・施設を運営されたい。作りたいということですね。

⇨はい。学んだことを技術とか、皆さんに教えたいです。

・素晴らしいですね。ベトナムにそういった施設もないので、チュックさんご自身が作って、ベトナムに介護ということを含め、広げていきたいという事ですね。

〝チャムさん〟

・チャムさんこの先の夢どうでしょうか？

⇨私個人としては今までもセネガルとの繋がりっていう事があったのでセネガルとの架け橋ができたらなと思ってたんですが、今のこの仕事を通してそれ以外の国々の方々と、あと私自身もこの帯広生まれっていうことで大好きなこの十勝を結んでいけるような存在になっていきたいと思っています。

〝久保田さん〟

・これからも架け橋としてよろしくお願いします。そして最後に久保田さんも今後の展望などを教えてくれいただけますか。

⇨やはり外国人の方々に選ばれるような地域を目指して多文化共生を進めていきたいです。外国人の住民の方が増えることに賛否両論あるとは思いますが、この北海道は歴史的にも、多文化共生っていうのを続けてきている地域ですので、他の都府県にはないところだと思うので、ぜひ北海道帯広十勝っていうのを外国人の方が住むカラフルな場所にできたらいいなと思っております。

・先進地の一つに、なっていくといいですよね。今日はどうもありがとうございました。

皆さんの夢がこれから実現していくことを願っております。そして今日会場お越しの皆様に様々な機会で国際交流とか、在留外国人の皆さんにお会いする機会も多いと思いますので、今日お聞きいただいたことを共生ですとか、多文化のためにそれぞれのお立場で少しでもお考えいただければ幸いでございます。

今日はここまでどうもありがとうございました。

それでは、謝辞を帯広北ロータリークラブ、石岡社長会長より申し上げます。

⇨本日は、コーディネーターの赤松様を初め、5名のパネリストの皆様、本当にありがとうございました。普段我々が接する外国人といえば、ロータリーの米山奨学生ぐらいだと思いますけども、本日の皆さんも本当に日本語が上手で、驚きました。私のクラブの細川会員の病院でも、ミャンマーから来た20名の方が介護士として働いていますが十勝に3000人以上の方が今いらっしゃると、本日初めて知りました。まだまだ交通の手段とか、課題がたくさんあるとお聞きしましが、私達ロータリアンが、国際交流としてできることはたくさんあると感じました。まず在留外国人のことをきちんと理解した上で雇用する。そして十勝のことをもっともっと知ってもらうためにも、お互いに交流を深める場をたくさん作っていくという、そういうことが大切だと思います。今後皆さんの夢がそれぞれ叶うように祈っております。簡単ですが、お礼の言葉とさせていただきます本日はありがとうございました。